

図書館だより

本で世界を広げよう!

2月



令和7年2月
大洲農業高校図書館

【図書委員おすすめの本の紹介】

《聲の形》



作者：大今良時

出版社：講談社

主人公の少年は、小学生のときに転校してきた耳の不自由な少女に好奇心を持つ。その後、あるきっかけから自分自身がクラスから孤立してしまう。それから5年の時を経て高校生になり、少女と再会した主人公は、過去の過ちと向き合い、自分の思いを伝えることで、少女や当時のクラスメイト達とお互いを理解し合い、自分自身をも受け入れ…

【おすすめポイント】

手話を使っている場面が多く、手話を知るきっかけとなる。

《狼と香辛料》



作者：支倉凍砂

出版社：電撃文庫

行商人のロレンスは、馬車の荷台で麦の束に埋もれて眠る少女を見つける。少女は狼の耳と尾を持つ美しい娘で、自らを豊作を司る神・ホロと名乗った。そんなふたりの旅に、思いがけない儲け話が舞い込んでくる。

【おすすめポイント】

主人公のローレンとヒロインホロとのかけあい。後半で大どんでん返し。

《B型自分の説明書》



作者：Jamais Jamais

出版社：文芸社文庫

行動パターンや他人とのつき合い方など数々の項目が、“基本操作”や“外部接続”といった機械のマニュアルのように分類され、当てはまる箇所にチェックマークを入れるようになっている。読めば読むほど「こんなとこ、あるある」と共感してしまう。

【おすすめポイント】

それぞれの血液型の本がある。自分にとっても合っていて面白かった。他の血液型を見ても面白いと思った。

《とてつもない数学》

作者：永野裕之

出版社：ダイヤモンド社



人気の数学塾塾長が数学の奥深さと美しさ、社会への影響力などを数学愛たっぷりにつづる。読みやすく編集され、数学の扉が開くきっかけになるかもしれない。

【おすすめポイント】

多様な数式を知ることができる。数学の歴史を知ることができる。

《友達がしんどいなくなる本》

作者：石田光規

出版社：講談社



友だち関係について「しんどい」と感じるのは、じつはあなた個人の問題ではない。実は、今の社会が、多くの人に「友だち関係を維持すること」を強いるような構造になっている。気鋭の社会学者が解き明かす、全く新しい「人間関係の教科書」である。

【おすすめポイント】

友達のこと悩んでいたが、この本を読んで人の気持ちに立って物事を考えたりすることができた。友達の考えを理解できて楽になると思う。

《星名くんは甘くない〜いちごサンドは初恋の味〜》



作者：夜野せせり

出版社：集英社

「ここ、女子はNGだから」……じょしはえぬじー？ 野宮小鳥(高1)は、あこがれの『四つ葉カフェ』でのバイトを志望していた。だけど、その店はクラスメイトの超モテ男子・星名新と、その美形すぎる兄弟たちが営むカフェだった！

【おすすめポイント】

小鳥が3人の美形店員の過去と向き合う様子がドキドキできる。読んでいくと4人の関係性が変わっていくのが感じられる。